

# 島根県立 古代出雲歴史博物館 NEWS

2013.APR vol.26



## CONTENTS

- 2 特別展示室 展示紹介PART 1
- 3・4 特別展「出雲大社展」特集
- 5 学芸員通信
- 6 博物館だより/まいぶんセンター通信
- 7 特別展示室 展示紹介PART 2
- 8 れきはくごよみ



彩繪繪扇  
平安時代 佐太神社 重要文化財  
展示期間 5月22日(金)～6月13日(木)



# 出雲大社展

平成の大遷宮



〔特別展〕

IZUMO  
TAISHA  
EXHIBITION  
ON THE OCCASION OF  
THE RENOVATION OF  
IZUMO TAISHA SHRINE

奈良三彩小壺  
奈良時代  
宗像大社  
国宝



平成二十五年  
四月十一日(金)～六月十六日(日)



赤糸威肩白鏡兜・大袖付  
室町時代 出雲大社 重要文化財  
展示期間 五月三日(金)～二十日(日)

鎌倉時代 秋野鹿蒔絵手箱  
出雲大社 国宝  
展示期間 五月三日(金)～二十日(日)



神々の国しまねプロジェクト

# 出雲大社展と 平成25年度のプロジェクト展覧会

学芸部長 足立 克己

平成22年度から始まった「神々の国しまね」プロジェクトも4年目を迎え、古代出雲歴史博物館でも平成25年4月12日に、いよいよ特別展「平成の大遷宮 出雲大社展」が開幕します。

約60年ぶりの遷宮が行われている出雲大社では、今年5月10日に本殿遷座祭が行われます。平成の大遷宮に合わせて当館で開催するこの展覧会は、『古事記』編纂1300年の節目の年にあたる昨年に、京都国立博物館と東京国立博物館において開催した巡回展と一連のもので、その最後を飾る本展では、出雲大社の歴史や遷宮の歴史にスポットを当てていきます。本展では、出雲大社のご神宝をはじめ、悠久の時を越えて伝えられてきた同社にまつわる文化財の数々を、全国の由緒ある諸社に伝わるご神宝とともに、一堂に展示するとともに、現在行われている本殿の修造過程も紹介する予定です。60年に一度のよみがえりの機会に、ぜひ出雲大社とその遷宮の歴史に触れてみてください。

さらに当館では、神々の国しまねプロジェクト事業の一環として、その後ふたつの展覧会を実施します。そのひとつは、企画展「石見神楽 一舞を伝える、舞と生きる―」（平成25年7月12日～9月8日）です。島根県石見地方は全国でも有数の神楽どころで、同地域に150を超える神楽団が存在します。その中には式年の大元神楽など儀式的な神楽もありますが、とりわけ近代以降は創意工夫により娯楽性の高い神楽が愛されています。そのような現代の多様な神楽の世界とこれに携わる地域の人々を紹介します。

もうひとつは、離島隠岐諸島に伝えられてきた文化財を紹介する特集展「隠岐之国 一島々の歴史と文化―」（平成25年12月27日～平成26年2月23日）です。離島ながらも「隠岐之国」と称され、一国として扱われた隠岐諸島は、その地理的要因により、他地域にはない独自性に満ちた歴史があります。本展覧会ではそのような島の成り立ちを考古資料、古文書、民俗資料等とおして概観します。

平成22年春の企画展「神々のすがた 古代から水木しげるまで」に始まる今回のプロジェクトの一連の展覧会は、「隠岐之国」展で一応完了します。この事業では、県内各地に現在まで連綿と受け継がれてきた島根県の歴史文化を紹介してきました。「石見神楽」展や「隠岐之国」展でも、最新の研究成果を紹介できるよう準備を進めていますので、どうぞご期待ください。

なお、今年（平成25年）は風土記撰進の命が発せられて1300年の年にあたります。これを機に、今後は貴重な「出雲国風土記」に関する展覧会も計画に挙げていくことを考えています。

古代出雲歴史博物館 企画展スケジュール  
Shimane Museum of Ancient Izumo Exhibition schedule  
2013-2014

<p>■神々の国しまね 特別展 平成の大遷宮 <b>出雲大社展</b> On the occasion of the renovation of IZUMOTAISHA shrine <b>IZUMOTAISHA Exhibition</b> 2013年4月12日(金)～6月16日(日) 休館日:休館日/4月16日(金)・5月12日(日) 〔平成22年の遷宮以来初めて開催するこの特別展では、出雲大社の御神宝をはじめ、考古資料や民俗資料など様々な文化財とともに、全国の由緒ある諸社に伝わりつづけてきた神楽の歴史を一堂に展示します。〕</p>	
<p>■神々の国しまね 企画展 <b>石見神楽</b> 舞を伝える、舞と生きる <b>Iwami Kagura</b> Dance on the dancing, live with the dancing 2013年7月12日(金)～9月8日(日) 休館日:休館日/7月16日(日)・8月2日(日)</p>	
<p>■企画展 <b>山陰の黎明</b> 歴史のふもとを暮らし <b>The Dawn of the San'in Region</b> Life at the former period village 2013年10月4日(金)～12月1日(日) 休館日:休館日/10月11日(日)・11月24日(日)</p>	
<p>■神々の国しまね 特別展 <b>隠岐之国</b> 島々の歴史と文化 <b>The Oki Region</b> The Culture and History of the islands 2013年12月27日(金) ～2014年2月23日(日) 休館日:休館日/1月21日(日)・2月11日(日)</p>	
<p>■特別展 近江巡礼 祈りの宝庫展 From The Museum of Shiga Prefecture, Shiga Museum <b>An Omi Pilgrimage</b> Devotional Treasures 2014年3月28日(金)～5月11日(日) 休館日:休館日/4月15日(日)</p>	



【特別展】

# 出雲大社展

平成の大遷宮

- ◆開催期間 平成25年4月12日(金)～6月16日(日) 9:00～18:00
- ◆開催場所 島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室
- ◆休館日 4月16日(火)・5月21日(火)

本年5月、出雲大社におかれては、5年の歳月をかけて進められた修造事業を終えて、本遷座祭が斎行されます。60年ぶりの大遷宮を機に、当館では悠久なる出雲大社の歴史を数々の未公開史料、新発見史料も含めて紹介し、あわせて県内外の古社に伝えられた神道美術の成果を一堂に展覧して、遷宮の意味と、それによって再認識されるきずなの大切さを紹介します。

## 主な展示品

### 第1章 大国主のイメージ

近代から現代の人々が思い描く大国主命のイメージと思いを紹介します。

青木繁「大穴牟知命」(佐賀県・石橋美術館)〈全期間〉ほか

### 第2章 出雲大社の起源

出雲大社境内遺跡出土遺物を中心に、祭祀遺物等を通して出雲大社創建の歴史と古代の信仰に迫ります。

奈良三彩小壺・人形(国宝/福岡県・宗像大社)〈全期間〉  
玉類(奈良県・大神神社)〈全期間〉ほか

### 第3章 発見された巨大柱

「天下無双の大厦」と称された出雲大社本殿を紹介します。

金輪御造営差図(千家家)〈5/15～6/16〉、出雲大社并神郷図(重文/千家家)〈4/26～5/16〉、杵築大社造営遷宮勸例案(重文/北島家)〈5/24～6/16〉ほか



舞楽面・納曾利  
(重文/愛知・熱田神宮)

### 第4章 慶長と寛文の大造営

中世の神仏習合と戦乱を経て、復古造営を遂げる過程を紹介します。

梵鐘(国宝/福岡県・西光寺)〈全期間〉ほか

### 第5章 古代への意識と信仰

国学の進展とともに大国主命が神道において重要視されてゆく過程と、「だいこく」信仰が全国に浸透する様相を紹介します。

本居宣長六十一歳自画自賛像(重文/三重県・本居宣長記念館)〈5/3～5/20〉、舞楽面「貴徳」(重文/愛知県・熱田神宮)〈5/3～5/23〉、舞楽面「貴徳番子」(重文/大阪府・住吉大社)〈5/24～6/13〉ほか



桐唐草蒔絵手箱  
(国宝/和歌山・熊野速玉大社)

### 第6章 出雲に集う神々の美術

島根県内外に伝えられた神道美術の優品を通して、神に祈り捧げることを探ります。

秋野鹿蒔絵手箱(国宝/出雲大社)〈5/3～5/20〉、桐唐草蒔絵手箱(国宝/和歌山県・熊野速玉大社)〈5/27～6/16〉、梅竹蒔絵鞍(重文/茨城県・鹿島神宮)〈4/12～5/2〉ほか

### 第7章 未来へ引き継ぐきずな 平成の大遷宮

平成の大遷宮に伴う本殿の修造事業の過程を紹介し、様々な困難を克服して文化財を守り、後世に伝える精神と、遷宮を通して再認識されるきずなの大切さを紹介します。

本殿鍔金具(出雲大社)〈全期間〉



# 奇跡の至宝

専門学芸員 岡 宏三

昨年、借用の事前調査のために奈良の春日大社にお参りし、宝物殿で「秋草蒔絵手箱」（重文／鎌倉時代）を拝観しましたが、まるで近年に製作されたのかと疑うほど保存状態がよく、思わず身の震えるような感動と緊張を覚えました。

神様が眼前にまします心で、神様の御心に適うように、当時の匠が精神を傾けてつくりあげ、捧げられた御神宝。これらは、私たちの祖先たちの、世の中の平安を願う敬虔な気持ちがこめられた「祈りの至宝」であり、悠久の歴史のなかで幾たびも襲った戦乱、災害をくぐり抜けて今に伝えられている「奇跡の至宝」でもあるのです。

今回の特別展では、出雲大社の新発見史料や御宝物類に加えて、諸国のゆかりある古社に伝来した数々の御神宝をご覧いただけます（会期中展示替えあり）。その美しさを堪能していただくとともに、必死に守り伝えてきた先人の労苦にも思いをはせてください。

## ◆ 特別展 関連企画 ◆

### 講座 (交流協定締結記念事業)

#### 神話の出雲と歴史の伊勢

■ 講師 榎村寛之氏  
(三重県立斎宮歴史博物館学芸普及課長)  
※交流協定締結館

■ 5月11日(土) 午後1時30分～3時30分

【場 所】 古代出雲歴史博物館 講義室  
【定 員】 先着100名  
【参加費】 無料・事前申込必要  
【申 込】 電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームで受付

### リレー講座

#### 展示が2倍楽しめる 担当学芸員のリレー講座

■ 講師 出雲大社展担当学芸員が交代で担当

■ 4月21日(日)、4月27日(土)、5月18日(土)、  
5月25日(土)、午後1時30分～3時30分

【場 所】 古代出雲歴史博物館 講義室  
【定 員】 先着100名  
【参加費】 無料・事前申込必要  
【申 込】 電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームで受付

### シンポジウム

#### 出雲大社と神々のものがたり —風土記説話の謎をとく—

■ 6月2日(日) 午後1時～4時30分

■ 内容 ● 基調講演 荻原 千鶴氏 (お茶の水女子大学教授)  
● 対 談 佐野 史郎氏 (俳優)、聞き手 石原美和氏 (フリー司会者)  
● パネルディスカッション  
司 会 関 和彦氏 (島根県古代文化センター客員研究員)  
パネリスト 荻原 千鶴氏 (お茶の水女子大学教授)  
川島 芙美子氏 (風土記を訪ねる会代表)  
兼岡 理恵氏 (千葉大学准教授)

【場 所】 大社文化プレイスうらら館 だんだんホール (出雲市大社町杵築南1338-9)

【定 員】 600名

【参加費】 無料・入場券必要

【申込方法】 ①代表者氏名②郵便番号③住所④電話番号⑤参加者全員の氏名(2名以内)を記入の上、ハガキ、ファックス、メールのいずれかでお申し込みください。

【申込締切】 5月12日必着

【申 込 先】 島根県古代文化センター

〒690-8502 島根県松江市殿町1番地 TEL 0852-22-6725 FAX 0852-22-6728  
E-mail : kodaisympo@pref.shimane.lg.jp



# 今回は、お客様からの質問にお答えします。

## Q「なぜ展示室は暗いのですか？」

**A** 皆さんは博物館や美術館に行ったときに展示室が暗く、展示品や解説パネルが見えにくいと感じたことはないでしょうか。

博物館で展示している資料は様々な素材で出来ています。例えば銅鐸や大刀は金属で、土器や陶磁器などは土、勾玉は石、古文書や掛け軸、地図などは紙や絹、神楽面や農具は木、衣装などは布が使われています。また複数の素材で作られている甲冑などもあります。

これらの資料には表面に染料や漆が塗られていたり、金箔が貼られていたり鍍金（金メッキ）されているものもあります。

照明の光には紫外線と赤外線が含まれています。土や石以外の素材は紫外線に非常に弱く、素材や染料の色があせたりします（退色）。赤外線は資料の温度を高め、漆膜がひび割れるなどの悪影響が出ます。

このように、照明を使用すると資料が劣化してしまいますが、資料を皆様にご覧いただく機会を設けることも博物館の責務です。なるべく快適に鑑賞していただけるよう、資料の状態を確認しつつ劣化を最小限に抑えた照明の調整を行っています。

近年、紫外線や赤外線の発生が少ないLED照明が開発され、寿命も長いことから、各地の博物館や美術館でも導入が進んでいます。当館でも現在LED照明の導入を検討しています。

以上のような理由で展示室の照明は暗くなっていますが、暗い照明の中でも見えやすい解説パネルの制作を心がけています。

貴重な文化財をよりよい状態で後世に伝えていくため、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。



## Q「なぜ展示替えがあるの？」

**A** 当館では、企画展に限らず常設展でも展示替えがあります。上記の照明の説明にあるように、資料は照明を浴びると紫外線などで退色するため常時展示していると劣化が進みます。展示替えは資料の劣化を最小限に抑えるために行われています。また、収蔵している数多くの資料をご覧いただく機会を設けるためであったり、それぞれの季節や行事に合わせて学芸員が資料を選んで展示替えを行う場合もあります。

展示替えは実物資料の交換に加え、どうしても展示構成からはずせない資料については、複製品を制作して、展示替えすることで補っています。書物などは開くページを替えたり、別の巻に変更するなどの工夫がされています。

今後も貴重な文化財の保存のため、展示替えを随時行っていきます。展示替え情報は皆様にはわかるように公開していきますので、ご理解ご協力のほど、よろしくをお願いいたします。





資料  
紹介

## 武蔵国分寺出土文字瓦 (平塚運一氏コレクション)

当館では、木版画家である故・平塚運一さんのご親族から譲り受けた考古資料多数を所蔵しています。木版画では、完成品と逆の模様を型（木版）に彫り込むという難しい作業をしなければなりません。この作り方が、瓦に模様や文字を入れる方法に似ていることに興味を持った平塚さんは、模様や文字のある瓦を精力的に採集して回りました。特に、近所にある武蔵国分寺の瓦は大量に採集され、コレクションの中心となりました。「瓦乱洞（がらんどう）」と名付けたアトリエに集められた質量ともに豊かな資料群は、平塚さんが島根県出身だった縁で島根県が購入、及び寄贈を受けることになりました。

大きな寺を造るには、屋根を葺く大量の瓦が必要になります。武蔵国分寺に必要な瓦は、武蔵国の各郡（「国」や「郡」は当時の行政区画の名称）にノルマが課されました。荏原（えばら）郡もそれらの郡の一つで、必要な瓦を瓦工房に発注して焼かせました。

瓦を作るには、材料になる板状の粘土をカマボコ形の型の上に乗せ、上からタタキ板でたたくことによって瓦の形を作ります。この瓦を作ったタタキ板には、格子目と「荏」（正確には「葎」）の字が一体になったマークが彫り込まれていました。このタタキ板を使って瓦を作ると、すべての瓦に自動的に「荏」のマークが入り、荏原郡が作った（作らせた）瓦は一目瞭然で分かる仕組みとなっています。

瓦を作った職人や、荏原郡の人たち工夫の跡を、瓦の文字一つにも見るができます。



これでもかとはばかりに並ぶ「荏」の字



「荏」の字（拡大）

## 埋蔵文化財調査センターの出土品整理作業

### ～土器の接合と復元～

発掘調査で出土する土器は、お祀りやお供えなどに使われた一部の例を除いて、元の形のまま出土することは稀です。調査現場では、バラバラになった状態で出土する土器を、出土地点を記録しながら注意して持ち帰ります。

遺跡から持ち帰った土器は、水洗いをして出土地点を記入した後、本来の形に近づけるために接合作業を行います。作業は出土地点のほかに、縄文土器・弥生土器・須恵器といった土器の種類や、壺・甕など土器の形を基に分類して接合の参考にします。

分類された土器は作業テーブルに並べられ、ジグソーパズルのように接合箇所を探していきます（左の写真）。色や模様を手掛かりに接合の確認をしますが、土器の破片の数は多い遺跡では千単位となるため、知識や経験に加え根気が必要になる作業です。また、接合に使う接着剤は、実は接着力が弱く、薬品を使って再度取り外しが可能な接着剤を使っています。さらに、接合した結果破片が足りない部分は、土器に強度を持たせたり、元の形をイメージしやすくするために補修材を使って復元します（右の写真）。

こうして復元された土器の中には、当初予想もされなかった形になるものや、県外や国外のような遠くの地域で作られ運ばれてきたことがわかるものもあります。出土した土器の中で特に資料的価値が高いものは、古代出雲歴史博物館などの公開施設で展示されます。今後の成果にご期待ください。



昨年8月に松江市古屋敷II遺跡で出土した土器の接合作業を一般公開しました



左の土器の接合後の写真です。平安時代の須恵器セットが復元できました

滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美

# 近江巡礼 祈りの至宝展

**会期** 平成26年3月28日(金)～5月11日(日)

**主催** 島根県立古代出雲歴史博物館、滋賀県、滋賀県立琵琶湖文化館、毎日新聞社

**協賛** 野崎印刷紙業株式会社



国宝 透彫華籠(神照寺)

滋賀県大津市の琵琶湖のほとりに建つ滋賀県立琵琶湖文化館（以下琵琶湖文化館）は、昭和36年（1961）に開館し、以来半世紀以上文化財の展示だけでなく、地域の文化財の保護に力を入れて来ました。その実績は、周辺社寺の信頼を得、所蔵する国宝・重要文化財などの貴重な文化財を数多く預かっています。

今回テーマとする近江は、言うまでもなく日本最大の大きさを誇る琵琶湖を抱え、古くから交通の要所であり、経済、文化の先進地です。また仏教の聖地である比叡山は、仏教文化のまさに中心地で、数多くの人物を排出しています。

特別展「近江巡礼 祈りの至宝展」では、琵琶湖文化館の全面的な協力を得て、滋賀県内の社寺から琵琶湖文化館がお預かりしている仏教美術を中心とした文化財や、琵琶湖文化館が長年にわたって収集してきた滋賀県ゆかりの近世絵画を展示します。

今回の展覧会は、二部構成になっており、第一部では、滋賀県の仏教美術、神道美術を代表する優品52件を展示します。第二部では、琵琶湖文化館のコレクションとなる近世絵画14件を展示します。

大津市にある天台宗寺院の聖衆来迎寺が所蔵する国宝「六道絵」は、滋賀県だけでなく、日本を代表する仏教絵画の優品です。六道とは人が死後おもむく六つの世界のことで、地獄道、餓鬼道、畜生道、阿修羅道、人道、天道のいずれかに輪廻転生を繰り返します。今回は、人道を描いた「人道生老病死四苦相図」を展示します。鎌倉時代の制作と考えられています。

長浜市の神照寺は真言宗智山派の寺院。同寺所蔵の国宝「透彫華籠」は、一枚の銅板を薄くのぼし宝相華唐草文を透かし彫りにしています。華籠とは散華供養を行う際に花を入れて手に持つ器です。僧侶が華籠から花を周囲に放り投げて散らします。鍍金と鍍銀が施され、美しく華やかな作品です。

大津市東南寺は天台宗寺院。同寺の重要文化財「地藏菩薩立像」は一木造の木彫像です。像は奥行きが深くボリュームに溢れた表現で、股間にロープを張り付けたような衣文がX字状に表現されています。よく見ると左右で衣文の幅を微妙に変えています。これは像が腰を捻っていることを強調したもので、像に動きを与えています。その存在感から写真で見ると大きな像のように感じますが、実際は70センチにも満たない小像です。平安時代中期の制作と考えられます。

琵琶湖文化館が所蔵する円山応震筆「琵琶湖図」は、大津より眺めた琵琶湖の風景を横長な画面に描いた作品です。画面右下には団扇や旗や檜をかがげて進む朝鮮通信使の一行が描かれており、単なる風景画ではないことが分かります。文政7年（1824）の制作です。

なお、会期中展示替えがありますのでご注意ください。



重要文化財 木造地藏菩薩立像(東南寺)



イベントのご紹介

「マンガで親しむ出雲神話シリーズ」原画展 開催

作画を担当された漫画家：岩田廉太郎氏の原画展です。

4月28日(日)～5月28日(火)

9：00～18：00

●場所：情報交流室 無料

「ゴールデンウィーク展示クイズラリー」

展示の内容がよく分かる、楽しいクイズに挑戦！

4月27日(土)～5月6日(月・祝)

9：00～18：00

●小中高：無料  
一般は観覧料（パスポート）が必要です。

「衣装体験コーナー」

5月5日(日) 10：00～15：00

●場所：講義室

無料



「衣装を着て記念写真を撮ろう」



巫女衣装

「れきはくまつり」& 「しまね家庭の日」

5月19日(日)

◆トライアングル 歌&紙芝居

楽しいクイズもあるよ。

雲太くん・出雲ちゃんも登場。

●11：00～・13：00～・15：00～

●場所：講義室

●無料

◆勾玉づくり体験

大人気の勾玉づくりの体験です。

●10：00～15：00（随時）

●場所：体験工房

●料金：300円



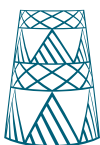
「平田一式飾」  
展示 4月10日(水)～

大遷宮に合わせて平田一式飾保存会が平安時代の出雲大社を再現した一式飾をエントランスホールで展示します。

一式飾は、その名称の通り茶器や陶器など一式を使い歴史上の人物・場面など独特な発想・技巧を凝らして飾り競う平田の伝統芸術です。



発行／平成25年4月



島根県立古代出雲歴史博物館  
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350  
URL：http://www.izm.ed.jp E-mail：contact@izm.ed.jp  
開館時間 9:00～17:00(3月～10月は、9:00～18:00)



マスコットキャラクター  
雲太くん



マスコットキャラクター  
出雲ちゃん